

渋沢敬三と宮本常一

～旅で感じる地域の魅力と底力～

2021年 NHK 大河ドラマの主人公「渋沢栄一」を祖父に持つ、渋沢敬三。日本銀行総裁や幣原内閣時の大蔵大臣を務める公人であった一方、民俗学者としても活動し、多くの学者を支援した。その学者の中には、若かりし頃の宮本常一がいた。周防大島町出身の宮本は「歩く学者」と呼ばれ、全国を旅して歩き、独自の民俗学を確立した。渋沢敬三の弟子として、アチック・ミュージアム(のちの日本常民文化研究所)研究員を務めた。



2022

2/19 土

14:00 ▶ 16:30(受付開始 13:30)

定員 30名程度 | 料金 1,000円

場所 山口市小郡地域交流センター(予定)
〒754-0002 山口市小郡下郷609-1



あんけい ゆうじ

安溪 遊地 【宮本常一と共著】調査されるという迷惑

山口県立大学名誉教授。西表島の廃村研究中に移動大学で宮本常一に出会いファンとなり、宮本の死後共著を出版。アフリカの物々交換市場の博士論文で渋澤賞受賞。フランス・スペインなどにも長期滞在。旅で出会った世界の庶民の自給的豊かさを山口市阿東の農園で実践中。

おいでませ山口桜NAVI



おいでませ山口桜NAVI は、山口県立大学が主宰する講座「桜の森アカデミー」の「やまぐち学マイスターコース」を修了した学生と社会人が2017年に創設したボランティア団体です。やまぐちの観光振興を目的に、これまでSLやポタリングイベント、フィールドワーク等の企画・運営をおこなってきました。



あんけい たかこ

安溪 貴子 【著書】森の人との対話(東京外大)等

山口大学や山口県立大学等で生物学と文化人類学の講師を務める。微生物・植物・人間の暮らしの研究をふまえて、コロナ下でも学生とともに生物の目の高さに関心をもち、アフリカの衣装をまとって異文化を感じ「いのちと環境」を五感で味わう時間を大切にしている。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、「手洗い」「アルコール消毒」「マスク着用」などへご協力をお願いいたします。また、感染状況や天候・交通事情等により、急遽イベントを中止または延期する場合があります。予めご了承ください。

下記の内容をご記入の上、メールまたは FAX にてお申し込みください。お電話でのお問合せをご希望の場合は、お手数ですがメールまたは FAX にてお問合せ内容と連絡先をご記入の上、お送りください。担当より折り返しをさせていただきます。

| | | |
|--------|----------|------|
| フリガナ | | 携帯番号 |
| お名前 | | |
| 住所 | | |
| お問い合わせ | する ・ しない | 内容: |